

がんを負けない社会をつくる

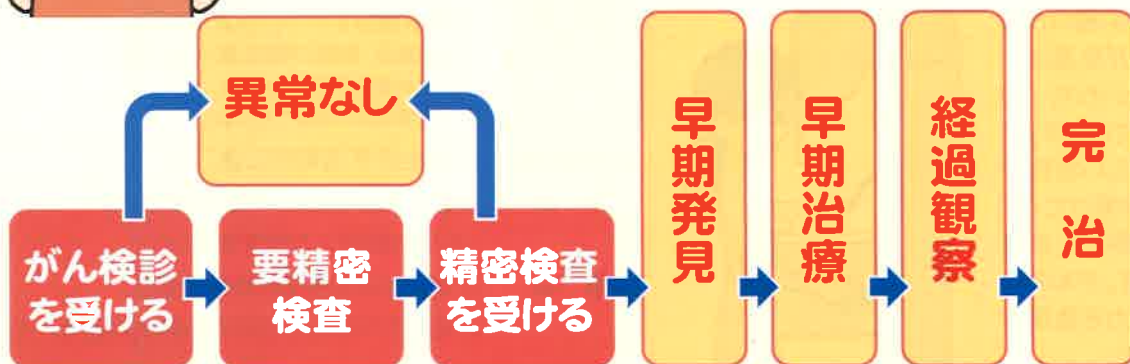
がん検診



早期発見から完治までの流れ

胃がん・大腸がん・子宮頸がん・乳がんは、早期発見・早期治療で9割以上の方が治ります。

2011年度に日本対がん協会グループで胃がん検診を受けた227万人のうち約3千人にがんが見つかりました。その中の6割は早期のがんでした。



がん検診を受けましたか？

がん検診は、一般に「健康な人」にがんがあるかどうかを調べる検査です。がんの早期発見に大切なのは、症状が出たらすぐ検査を受けることではありません。早期のがんでは症状はまず出ませんから、何も症状のないうちに検査を定期的に受けることが大切なのです。早期がんの段階で治療を受ければ、がんによっては9割方が完治すると言われています。

企業にお勤めの方には、がん検診の費用を健康保険組合で補助しているところも増えています。ご所属の健康保険組合に尋ねてみてください。

公益財団法人 島根県環境保健公社

〒690-0012 松江市古志原一丁目4番6号
TEL 0852 (24) 0013 FAX 0852 (24) 0122

E-mail: kenshinkanri@kanhokou.or.jp

健康が自慢のあなたもがん検診

2015年度 がん征圧スローガン

胃がん検診

40歳以上
年1回

主な内容は、問診とX線検査(通常7~8枚)です。

胃がんは日本人が一番多くかかるがんですが、早期に発見すると9割方治ります。でも、進行して見つかるとう治療が難しくなります。胃がんはその差が大きく、早く見つけることが大切です。

特に40代になると発病率が急上昇します。症状がないうちに検診で早期発見しましょう。



肺がん検診

40歳以上
年1回

主な内容は、質問と胸のX線撮影です。

必要に応じて喀痰細胞診という、痰の中に含まれる細胞を調べる検査を行います。

肺がんによる死亡者は1998年に胃がんを上回って以来、ずっとトップを占め、2013年には7万2734人となりました。抗がん剤の研究・開発などが進められていますが、進行すると治療が難しいのが現状です。何よりもまず、検査を受けることと、禁煙が大切です。



大腸がん検診

40歳以上
年1回

主な内容は、問診と便潜血検査(2日法)で、がんによる出血の有無を調べます。

大腸がんは近年、男女とも増えています。理由は、欧米化した食生活の影響とされます。女性では、がんによる死亡の中で最も多く、2013年には2万1846人が亡くなっています。検診を毎年受けていれば早期に見つかり完治するケースが増えると期待されます。



子宮頸がん

20歳以上
2年に1回

主な内容は、問診、視診、内診、子宮頸部の細胞診、必要に応じてコルポスコープです。

子宮頸がんは20代、30代に増えています。検診では、がんになる前の細胞の「異常」を見つけることができます。原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染を防ぐことを目的としたワクチンもあります。ただワクチンで100%防げるわけではなく、検診を受けることが大切です。



乳がん検診

40歳以上
2年に1回

主な内容は、問診、マンモグラフィ検査(乳房X線検査)および視触診です。

乳がんは日本人女性のがんで最も発病率の高いがんです。12人に1人が生涯に一度は発病するといわれ、30代後半から増えています。仕事や子育てに忙しい世代ですが、ぜひ検診を受けてください。早期だと9割以上が治ると期待されます。がんの中でも検診が最も力を発揮するがんの一つです。



がんになるリスクを下げる為に日常生活で出来る事

喫煙	たばこは吸わない。 他人のたばこの煙をできるだけ避ける。
飲酒	飲むなら、節度をもって飲む。
食事	食事は偏らずバランスよくとる。 * 塩蔵食品、食塩の摂取は最小限にする。 * 野菜や果物不足にならない。 * 飲食物を熱い状態でとらない。
身体活動	日常生活を活動的に過ごす
体形	年齢に応じた適正体重を維持する (太りすぎない、やせすぎない)
感染	肝炎ウイルス感染の有無を知り、 感染している場合はその治療の措置をとる。

(国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス)
※出典元: http://ganjoho.jp/public/pre_scr/prevention/evidence_based.html